

湾奥の浅場で大型狙い
八景沖のコマセダイ好調



取材日の最大は2.5キロだったが、それ以上の大タイも十分期待できる

●八景沖でマダイが釣れるのは例年11月ごろまでのことだから急ごう！

●釣り場は八景沖の水深18～20メートル



▲船宿仕掛けはハリス4号全長6メートル



東京湾で最も湾奥に近いコマセダイ釣り場が八景沖。例年9～11月ごろに大ダイが釣れるポイントとしても知られており、今年も9月になってから水深20メートル前後の浅場でスタート、4～6キロ前後の大型が結構な頻度で取り込まれている。
水深が浅いだけにハリスも全長6メートルと短めがよく、引きもダイレクトに伝わるから慎重にヤリトリすることが大ダイゲットの秘訣となる。
(詳細は54ページ参照)

◎東京湾奥金沢八景・太田屋 太田 一也船長



●浅場だけに引きも強いから慎重にヤリトリしよう



●メインとなるサイズは1キロ前後



●いい日はトップで2～3枚釣れることもある



浅場だから初心者でも挑戦しやすい



●イナダも釣れた
▲八景沖で模様がなくなれば久里浜沖を狙うようになる



●クロダイもよく交じる

コマセカゴの調整あれこれ



▲ブラビシ、ステン缶ともFLサイズでオモリは80号

仲乗りの佐藤楓くんは、ブラビシの下窓を全部閉め、上窓を全開にして使っていた。これは、竿を振ったときのみ上窓からオキアミがこぼれ出るといった調整の方法だ。コマセを出すタイミングを自分でコントロールできるというメリットはあるが、しっかりと竿を振りきらないとコマセが出にくくなるので慣れも必要だ。
対して、ステン缶の場合はコマセがボロボロとこぼれ出るので、竿の振り方が弱くてもコマセを出せるが、スポットでコマセをまくような動作はやりにくい。
筆者はステン缶を愛用している。なお、ブラビシでも下窓を5～6ミリ開いておくと、ステン缶と同じようなコマセの出方になる。